

東日本大震災から5年

響け! 復興へのハーモニー

～ つながる未来～

岩手・宮城・福島・沖縄の子どもたちによる合同オーケストラコンサート

大槌子どもオーケストラ



©FESJ/2015/Takaaki Dai



OTSUCHI
CHILDREN'S
ORCHESTRA

仙台ジュニアオーケストラ



Sendai
Junior
Orchestra



相馬子どもオーケストラ



©FESJ/2015/Masato Tagashira



SOMA
CHILDREN'S
ORCHESTRA
& CHORUS

那覇ジュニアオーケストラ



プログラム予定

- 「カルメン第1組曲」より/Gピゼー
- 「威風堂々第1番」より/EW.エルガー
- 「空に願いを」/ハーライン
- 「東北3県メドレー」/編曲：遠又悠祐
- 「島人の宝」/BEGIN
- 「花は咲く」/作詞：若井俊二 作曲：菅野よう子
- 他

合唱/昭和薬科大学付属高等学校吹奏楽部・合唱部

指揮/後藤 正樹



2016 3.20 (日)

午後2時開演 (午後1時30分開場)

全席自由 一般 2,000円 学生(高校生以下) 1,000円

※3才以下のお子様は膝上無料

パレット市民劇場 (パレットくもじ9F)



- 主 催：一般社団法人 琉球フィルハーモニック ■共 催：那覇市教育委員会
- 後 援：沖縄県 岩手県 宮城県 福島県 那覇市 琉球新報社 沖縄タイムス社 岩手日報社 岩手日日新聞社
河北新報社 福島民友新聞社 福島民報社 NHK沖縄放送局 琉球放送 琉球朝日放送 沖縄テレビ放送
ラジオ沖縄 (株)エフエム沖縄 タイフーンfm 宮城県沖縄県人会
- 協 力：在沖縄岩手県人会「美らめんこい会」 在沖縄宮城県人会「沖縄萩の会」 沖縄福島県人会
エル・システムジャパン 仙台ジュニアオーケストラ
- 助 成：第4回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞 ■協 賛：ANA

【お問合せ&ご予約】 琉球フィルハーモニック事務局 080-6497-8049

本公演について

東日本大震災から5年目を迎えても尚、復旧、復興へ向けた動きは様々な要因のため、思うように進んでいないのが現状です。特に津波の被害を受けた海沿いでは、未だにその爪痕が残ったままの地域も多く、また、放射能の影響等により不自由な生活を強いられている方も数多くいらっしゃいます。琉球フィルハーモニック代表兼那覇ジュニアオーケストラ団長が元仙台フィルハーモニー管弦楽団団員であり、弊団事務局長が宮城県出身で在沖縄宮城県人会「沖縄秋の会」の副会長をつとめていることから、震災直後より度々被災地の様子を見学し、沖縄からの支援を行って来ました。震災から5年を迎え、風化の危機感の中、沖縄からの応援の声を届けたいという思いを強く持っています。

国内最大の地上戦により焦土と化した70年前からは見違える程の復興を遂げた沖縄で、岩手、宮城、福島、沖縄の未来を担う子供たちが集い、音楽をとおして交流を深め、被災地との「ユイマール(絆)」の架け橋となることを目的として公演を開催します。

一般社団法人 琉球フィルハーモニック 代表理事 上原 正弘

出演団体のご紹介



©FESI/2015/Takasaki Dai

大槌子どもオーケストラ



大槌に代表される豊かな郷土芸術が息づく岩手県上閉伊郡大槌町。東日本大震災では地震・津波による深刻な被害を受け、2015年12月現在も人口の約4分の1が仮設住宅に暮らし、多くの子どもたちが仮設住宅、仮設校舎での生活を余儀なくされています。エル・システムジャパンは、2014年5月に町と協定を結び、町内吹奏楽部の指導者派遣、弦楽器教室を通して、すべての子どもたちの居場所となるような教室づくりを目指して来ました。弦楽器教室は同年8月に開始。楽器は無償で貸与され、初めて楽器に触れる子どもたちが大半です。平日は町内2箇所の放課後教室で、週末は未就学児も参加して毎日教室が開校されています。全体で約20名程度と小規模ですが、時を忘れて練習する熱心な子どもたちが通っています。大槌のテーマソングとも書える、「ひょっこりひょうたん島」の歌詞をしながらバイオリンが奏される大槌の子どもたちを代表して、今回は習い始めて2年に満たないながらも、夢中に取り組んでいる小学5年生3名が参加します。



仙台ジュニアオーケストラ

仙台ジュニアオーケストラは、音楽文化の一層の振興と発展を図ることを目的に1990年5月に仙台市が設立しました。団員は、公募で選ばれた小学校5年生から高校2年生までの児童・生徒で構成されています(2016年1月現在107名)。弦楽器と木管・金管楽器をそれぞれ4パート、それに打楽器を加えた13のパートを備えるフルオーケストラです。音楽監督に国内外で活躍中の指揮者小森康弘氏を、また講師には仙台フィルハーモニー管弦楽団団員を迎え、日立システムホール仙台(仙台市青年文化センター)を会場に、月3回程度の練習を行っています。プロのオーケストラの団員による指導を常時受けられるという点は、仙台ジュニアオーケストラ設立当初からの大きな特徴となっています。活動の中心は、秋の定期演奏会と春の春のコンサートです。これらの演奏会に向け、通常の練習に加え、夏期合宿や冬期集中練習などを行っています。



©FESI/2015/Mariko Tagashira

相馬子どもオーケストラ



福島県相馬市におけるエル・システムジャパンの活動は、2012年4月に開始し、器楽部へのバイオリン専門家派遣、楽器の購入・修繕等の支援活動を始め、市内の他小学校における合唱部、金管バンド、バイオリン教室、鼓笛隊、そして、音楽の授業等、様々な形において活動を展開して来ました。2013年4月からは、中学3年生になった弦楽器経験者も継続して練習ができるよう、週末弦楽器教室が30人にて始まり、現在では、未就学児や高校生を含む約90人の子どもたちが、弦楽器オーケストラのメンバーとして日々練習に励んでいます。2015年3月には東京サントリーホールにてエル・システム出身のグスターボ・ドゥグメルの指揮のもと公開リハーサルを行いました。今回参加する中学生たちは、開始時小学校6年生で相馬子どもオーケストラを中心メンバーとして支えてきました。被災地の復興に向けた年月は、まさに子どもたちが大人になる人生の過程そのものです。地元の人々の郷土愛に基づくアイデンティティを大切に、地元根づいた持続可能な仕組みづくりを目指しています。



那覇ジュニアオーケストラ

那覇ジュニアオーケストラは、那覇市およびその近郊の小中学生から高校生で構成されるオーケストラです。一般社団法人 琉球フィルハーモニックが母体となり、2013年10月より活動をスタートし、学校や学年の垣根をこえ「思いやり」と「感謝の心」を大切に、心の豊かさの醸成を目的とした音楽活動を行っています。指導者には、琉球フィルハーモニック チェンバーオーケストラ「イオ」のメンバーを中心に、プロの指揮者や演奏家を招き、技術や音楽力の向上に努めています。これまでに「こどもフェスタinなは」への参加や、2回の定期演奏会を那覇市で開催しています。「第4回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞。今年の8月11日には第3回定期演奏会開催を予定しています。



「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」とは

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とサントリーホールディングス株式会社は、音楽を通じて、被災地はもとより日本全体に活力を与える支援活動を継続的に実施する目的で、2012年4月2日公益財団法人サントリー芸術財団に「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興基金」を設立しました。そして、日本の音楽文化を活性化することで、<被災地>または<日本全体>に活力を与え続けていきたいという願いにもとづき、全国の団体・個人から目的に沿った活動を募集、選考された活動には「音楽復興祈念賞」を授与し、助成金を交付します。また、受賞者の希望に応じて、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団団員が演奏・指導等に参加します。

(今年18の活動が受賞しました)